福岡市埋蔵文化財調査報告書第1488集

HARA　I　SEKI

原遺跡23

－第37次調査報告－

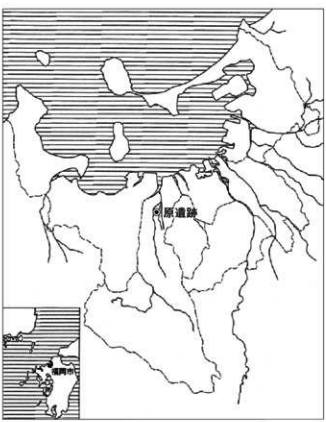
２０２３
福岡市教育委員会

福岡市埋蔵文化財調査報告書第1488集

HARA　I　SEKI

原遺跡23

－第37次調査報告－



遺跡略号　HAA－37

調査番号　2040

2023

福岡市教育委員会

序

玄界灘に面する港湾都市福岡は、太古の昔から大陸との交流の窓口として栄え、それを示す多数の埋蔵文化財が残っています。しかしこれらの埋蔵文化財は開発の進展に伴って、その一部が失われつつあるのも事実です。福岡市では工事に先立って発掘調査を実施し、後世にその成果と意義を伝えるべく、努めて参りました。

本書は共同住宅建設に伴い、早良区原５丁目地内で実施した原遺跡第 37 次調査の成果を収めるものです。

今回の調査では、古代～中世の溝、旧河川などを検出しました。

本書を通じて調査成果がより多くの方に共有され、活用されることを願ってやみません。

最後になりましたが、株式会社えんホールディングス様をはじめとする関係者の方々にはご理解と多大なご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

令和５年３月 23 日

福岡市教育委員会
教育長　石橋　正信

例言

1．本書は共同住宅建設に伴い、福岡市早良区原５丁目地内において実施した原遺跡第 37 次調査の報告である。
2．検出遺構はピットとそれ以外のものとに分け、それぞれ通し番号とし、以下の略号を付した。
　ピット　ＳＰ　　溝　ＳＤ　　土坑　ＳＫ　　旧河川　ＳＸ
3．遺構の実測は木下博文が行った。
4．遺物の実測は山崎龍雄が行った。
5．遺構・遺物の写真撮影は木下博文が行った。
6．製図は山崎龍雄が行った。
7．本書で使用した方位は磁北で、真北より６°　20′西偏する。
8．本書に関わる図面・写真・遺物は福岡市埋蔵文化財センターに収蔵・保管される。
9．本書の執筆・編集は木下博文が行った。

調査番号　2040	遺跡略号　ＨＡＡ－37	分布地図番号　０８２　原
所在地　福岡市早良区原５丁目 1333 番 3、1330 番 7		調査面積　555.6㎡
調査期間　2021.1.21 ～ 2021.3.17		

本文目次

第１章　はじめに……1
　１　調査に至る経緯……1
　２　調査体制……1
第２章　遺跡の立地と環境……1
第３章　調査の記録……4
　１　調査の概要……4
　２　遺構と遺物……4
　３　まとめ……5
図版１～３……９～11

挿図目次

図１　遺跡の位置（Ｓ＝１/25000）……2
図２　調査地点位置図１（Ｓ＝１/6000）……2
図３　調査地点位置図２（Ｓ＝１/2000）……3
図４　調査区位置図（Ｓ＝１/500）……3
図５　１・２区平面図（Ｓ＝１/300、１/150）……6
図６　ＳＤ０２・０３・０８、ＳＫ10 実測図（Ｓ＝１/80、１/60）……7
図７　出土遺物実測図（Ｓ＝１/３）……8

図版目次

図版１　１区東半全景（北から）　１区西半全景（北東から）　ＳＤ０２・０３（東から）
　　ＳＸ０１（南東から）　ＳＸ０４（南東から）　ＳＤ０５・０６（南から）
　　ＳＤ０７（南東から）　２区全景（西から）
図版２　２区北壁土層断面（南西から）　ＳＤ０８（南東から）　ＳＫ10（南から）　ＳＸ11（北西から）
　　ＳＸ11 中層遺物出土状況（北から）　ＳＸ11 底検出状況（南から）
図版３　出土遺物

第１章　はじめに

１　調査に至る経緯

福岡市教育委員会は、令和２（2020）年８月 28 日付で、株式会社えんホールディングスより早良区原５丁目 1333 番 1、1330 番７地内における埋蔵文化財の有無について照会を受けた（事前審査番号 2020-2-426）。同地内は原遺跡の範囲内であることから、同年９月 25 日に確認調査を実施し、地表面下 110 ～ 120 ｃｍで遺構を確認した。

今回は共同住宅建設であり、その基礎工事内容は残存遺構への影響を及ぼすものであることから、発掘調査を実施することとなった。

本調査は、令和３（2021）年１月 21 日にバックホウによる表土剥ぎより着手した。１月 25 日より人力による掘り下げを開始、順次遺構の検出･精査･実測を進め、令和３（2021）年３月 17 日に終了した。

２　調査体制

調査委託　株式会社えんホールディングス

調査主体　福岡市教育委員会

（発掘調査　令和２年度　　資料整理　令和４年度）

調査総括	経済観光文化局文化財活用部埋蔵文化財課長	菅波　正人（令和２・４年度）
	同課調査第１係長	吉武　学（令和２年度）
		本田　浩二郎（令和４年度）
庶務	文化財活用課管理調整係	松原　加奈枝（令和２年度）
		内藤　愛（令和４年度）
事前審査	埋蔵文化財課事前審査係長	本田　浩二郎（令和２年度）
		田上　勇一郎（令和４年度）
	同課事前審査係主任文化財主事	田上　勇一郎（令和２年度）
		森本　幹彦（令和４年度）
	同課事前審査係	三浦　悠葵（令和２年度）
		神　啓崇（令和４年度）
調査担当	埋蔵文化財課調査第１係	木下　博文

第２章　遺跡の立地と環境

原遺跡は、早良平野の中央、金屑川右岸の標高５～６ｍの微高地上に立地する。

遺跡の周囲には、金屑川を挟んだ西側の台地上に有田遺跡群が立地し、弥生時代中期～後期の竪穴建物・井戸、古墳、古代の官衙とみられる掘立柱建物群など、弥生時代～中世までの遺構が濃密に検出される。対する東側の飯倉丘陵には飯倉遺跡が立地し、青銅製武器を副葬する弥生時代の甕棺墓が確認されている。南側の外環状線付近には、次郎丸高石・免・野芥などの各遺跡が分布し、古い時期のものとしては旧石器や初期水田農耕に関わる弥生時代前期の遺物を含む例がある。

原遺跡は大きく東西２つの南北方向の微高地上に展開し、現在まで 30 回を越える発掘調査が実施され、上記の遺跡と共通した各時代の遺構が検出されている。今回の調査地点は西側の微高地上、遺跡全体の北西端に位置する。

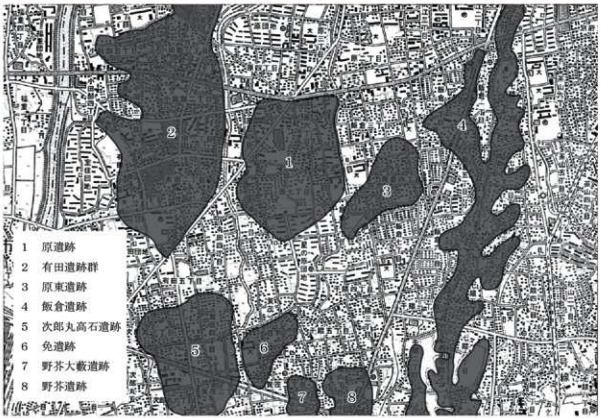


図１　遺跡の位置（Ｓ＝１／25000）

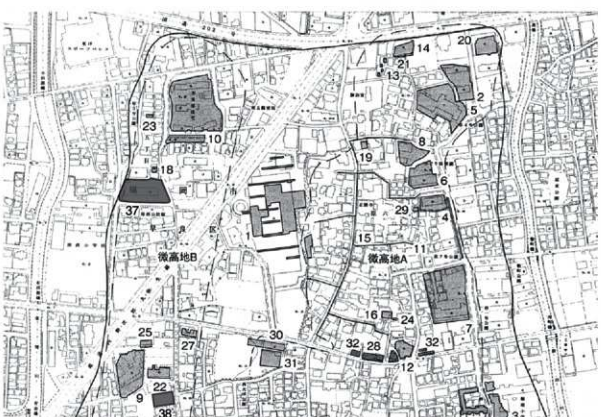


図２　調査地点位置図１（Ｓ＝１／6000）

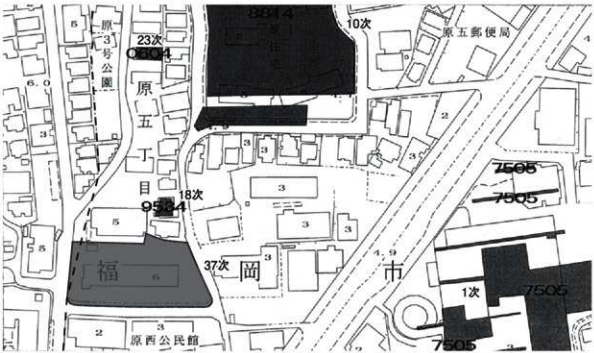


図３　調査地点位置図２（Ｓ＝１／2000）

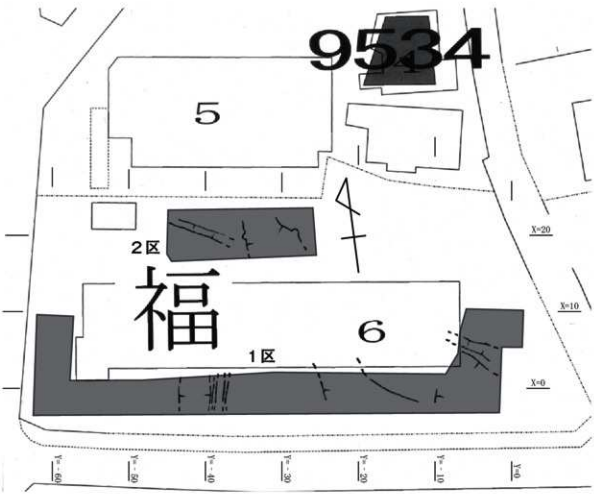


図４　調査区位置図（Ｓ＝１／500）

既往の調査は本調査地点より北側で10・18・23次調査、南側で9・22・25・27・38次調査が実施されている。

北側の10・18・23次調査では、遺構密度が薄く、出土遺物量も少なく、集落の縁辺の様相を示しているものの、溝・土坑・掘立柱建物など弥生～中世の遺構が確認されている。

南側の9・22次調査では中世後期の大溝が確認され、方形の居館域を成すことが判明している。38次調査では完形の壺・甕を含む弥生時代後期前半の土坑を検出している。

10次 『原遺跡3』福岡市埋蔵文化財調査報告書第215集 1990
18次 『福岡市埋蔵文化財年報』Vol.10 1997
23次 『福岡市埋蔵文化財年報』Vol.21 2008
9次 『原遺跡2』福岡市埋蔵文化財調査報告書第140集 1986
22次 『原遺跡11』福岡市埋蔵文化財調査報告書第818集 2004
25次 『原遺跡13』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1129集 2011
27次 『原遺跡15』福岡市埋蔵文化財調査報告書第1168集 2012
38次 令和3年度筆者担当 令和5年度報告書刊行予定

第3章 調査の記録

1 調査の概要

本調査地点は原遺跡の北西端に位置し、現地表面の標高5.5～5.9mである。今回の調査対象範囲は、確認調査の所見に基づき、①遺構面がすでに消滅している既存建物部分を除く新築建物拡大範囲と②立体駐車場範囲に定められている。本調査においては、便宜的に①を1区、②を2区とした。

土層堆積は、①客土（GL－74cmまで）、②旧水田耕作土（GL－86cmまで）、③床土（GL－95cmまで）、④暗灰褐色粘質土（GL－111cmまで）、⑤青灰または黄褐色シルト（地山）となっている。遺構は⑤の上面で検出した。溝、ピット、旧河川である。出土遺物量はコンテナ1箱分である。

遺構はピットとそれ以外に分け、それぞれ通し番号とした。

2 遺構と遺物

1区

溝

SD02（図6、図版1）

1区東端で検出した。検出長3.8m、幅1～1.3m、深さ0.45～0.5mの東西方向である。攪乱およびSD03に切られる。覆土は暗灰色粘土でかなり締まりがある。須恵器甕の破片が出土した。

出土遺物（図7、図版3）

1は須恵器甕の胴部片。外面に平行タタキ目とカキ目、内面に青海波状の当て具痕がある。

SD03（図6、図版1）

1区東端で検出した。検出長5.7m、幅0.3～0.36m、深さ0.1m前後、方向は北西から南東である。攪乱に切られ、SD02を切る。

ＳＤ０５（図５、図版１）

１区西半で検出した。検出長 3.25m、幅 0.4m、深さ５cm 前後の南北方向である。

ＳＤ０６（図５、図版１）

１区西半、ＳＤ０５の西側で検出した。検出長 3.3m、幅 0.45m、深さ５cm 前後の南北方向である。

ＳＤ０７（図５、図版１）

１区西半、ＳＤ０５の西側で検出した。３本の溝からなる。検出長 2.45m、幅 3.9m、深さ 0.35m の南北方向である。

旧河川

ＳＸ０１（図５、図版１）

１区南東隅で検出した。深さ 0.5m 以上。

ＳＸ０４（図５、図版１）

１区東半、ＳＸ０１の西側で検出した。深さ 0.6m 以上。

２区

溝

ＳＤ０８（図６、図版２）

検出長 7.8m、幅 0.8 ～ 1.0m、深さ 0.3m 前後、方向は北西から南東である。ＳＫ 10 を切る。

土坑

ＳＫ１０（図６、図版２）

２区西半北壁際で検出した。深さ 0.8m。ＳＤ０８に切られる。

旧河川

ＳＸ１１（図５、図版２）

２区東半で検出した。深さ 0.8m。中央南寄りの中層で土師器高杯片が出土している。

出土遺物（図７、図版３）

２は青磁皿。復元口径 13.0cm、龍泉窯系Ⅰ類。３は青磁椀。４は土師器高杯。口径 15.8cm、器高 11.0cm、底径 10.5cm。黄橙色を呈し、杯部の内外面にわずかにハケ目痕が残る。

３　まとめ

今回の調査では、古代～中世の溝、ピット、旧河川を検出した。既往の調査と同様、遺構の分布密度は極めて低く、出土遺物量も極めて少ないことから、集落の縁辺部の様相を表している。

旧河川ＳＸ０４および 11、ＳＤ０２および０８は走向から一連のものの可能性があるが、河川と溝が重なり合うこととなり、その部分は既存建物による消滅部分および未調査範囲に含まれることから、実証が困難である。河川と溝は水利との関係があり注目されるが、西側微高地上ではまだまだ調査事例が少ないため、今後の調査に俟ちたい。

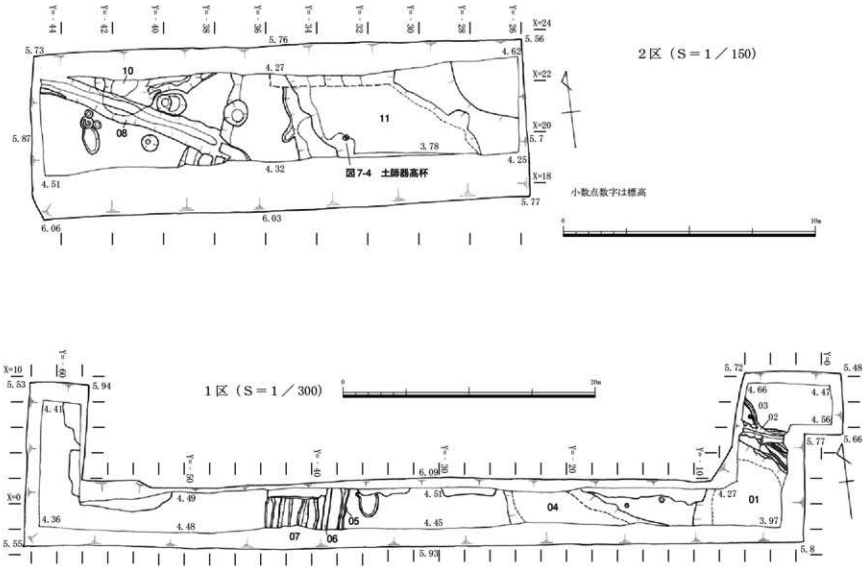


図5　1・2区平面図（S＝1／300、1／150）

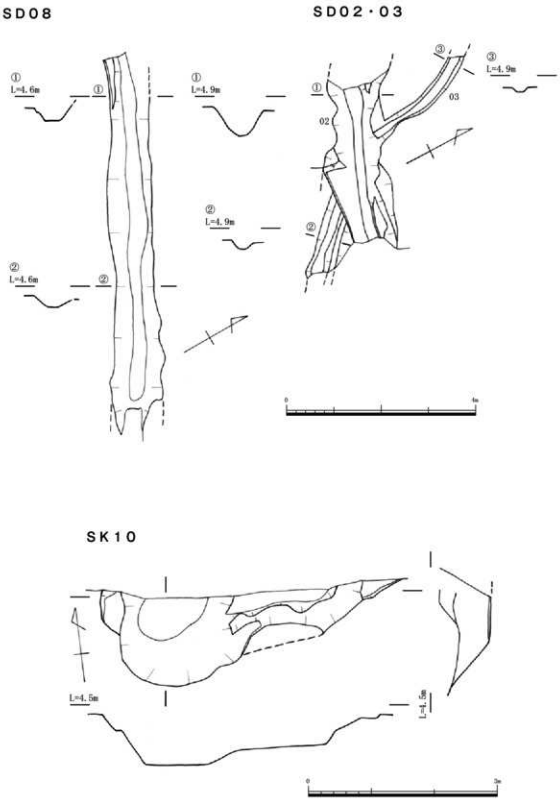
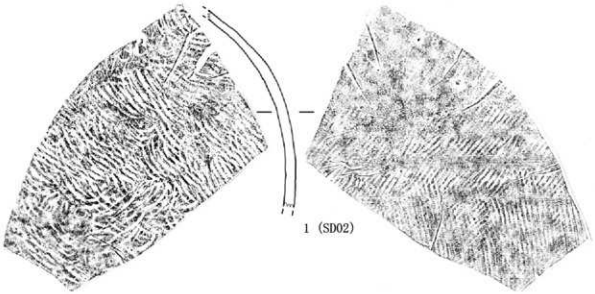


図6　ＳＤ０２・０３・０８、ＳＫ10実測図（Ｓ＝１／80、１／60）



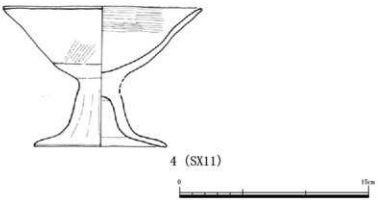
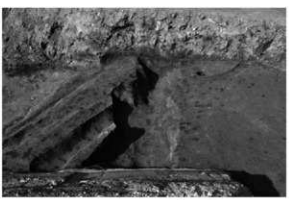


図７　出土遺物実測図（Ｓ＝１／３）

１区東半全景（北から）

１区西半全景（北東から）



ＳＤ０２・０３（東から）

ＳＸ０１（南東から）

ＳＸ０４（南東から）

ＳＤ０５・０６（南から）

ＳＤ０７（南東から）

２区全景（西から）

図版２

２区北壁土層断面（南西から）

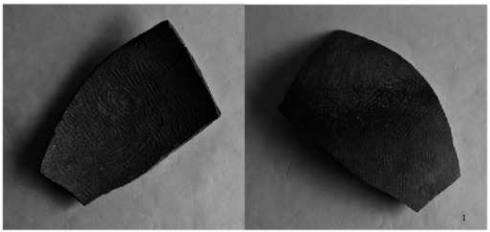
ＳＤ０８（南東から）

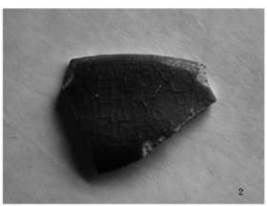
ＳＫ 10（南から）

ＳＸ 11（北西から）

ＳＸ 11 中層遺物出土状況（北から）

ＳＸ 11 底検出状況（南から）





出土遺物

報告書抄録

ふりがな	はらいせき
書名	原遺跡23
副書名	第37次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財発掘調査報告書
シリーズ番号	第1488集
編著者名	木下博文
編集機関	福岡市教育委員会
所在地	〒810-8621　福岡市中央区天神１－８－１
発行年月日	2023年3月23日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
はらいせき 原遺跡 第37次	ふくおかしさわらくはら 福岡市早良区原 ５丁目 1333番3、1330番7	40137	0311	33度33分 53.31秒	130度20分 23.78秒	20210121 ～ 20210317	555.6	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
原遺跡	集落跡	弥生～中世	溝、旧河川、ピット	弥生土器、土師器、須恵器、中国産磁器	

要約

原遺跡は早良平野の中央、金屑川右岸の微高地上に展開する。今回の調査地点は、遺跡の北西端に位置し、敷地の西側隣接道路が遺跡の西縁ラインとなっている。現地表面の標高は5.5 ～ 5.9mである。遺構は現地表面下110 ～ 120cmの青灰色ないし黄褐色シルトの上面で検出した。旧河川跡２条、古代～中世とみられる溝６条、ピットを検出した。出土遺物は旧河川跡から弥生時代終末期の土器、古代とみられる溝から須恵器甕片、遺物包含層から中国産白磁片など、コンテナ１箱が出土している。

原遺跡 23

―第 37 次調査報告―

福岡市埋蔵文化財調査報告書第 1488 集

2023（令和５）年３月 23 日

発　行　福岡市教育委員会

〒 810-8621　福岡市中央区天神 1 - 8 - 1

印　刷　エース印刷株式会社

〒 810-0052　福岡市中央区大濠 1 - 6 - 9

原遺跡23

福岡市埋蔵文化財調査報告書第一四八八集

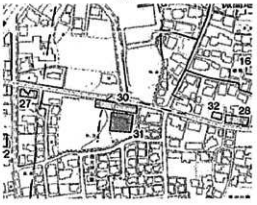
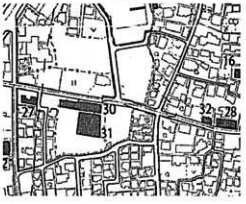
２０２３　福岡市教育委員会

『原遺跡23』正誤表　　福岡市埋蔵文化財調査報告書第1488集

頁	行/図	誤	正	
2	図2	原遺跡30・31次調査地点位置のずれ	下図のとおり	

2頁 図2

誤



正